

目指す学校像	子どものやる気を育てる日進北小・授業がたのしい日進北小
--------	-----------------------------

重点目標	1 学びの自律化に向けた授業改善の推進 2 安心・安全な学校に向けた教育支援・教育相談体制と学校行事の充実 3 コミュニティスクールの成長、進化に向けた理念、方策の共有と行動 4 一人ひとりが力を発揮し、「子どものやる気を育てる・授業が楽しい」学校をつくる教職員研修の充実
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価	
年 度 目 標			年 度 評 価				実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査 ・学習に関して、やや低下傾向にある。国語に関しては「書くこと」「知識・理解」がやや低く「話すこと・聞くこと」「読むこと」に関しては高い傾向がある。 ・算数は「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」「知識・技能」等全体的にやや低い。 ○市の学習状況調査 ・理科は興味関心が高いがそれに比して国語、社会、算数の学習への意欲がやや低い。 【課題】 ○全国学力学習状況調査の分析から、国語については「書くこと」、算数については「図形」「測定」のポイントを上げることが課題である。 ○算数の勉強がすきだと感じさせる授業実践が必要である。	学びの自律化に向けた情報端末活用、授業改善	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を活用し、児童が目標を持って学習できるようにする。 ②全国及び市の学習状況調査の最新の結果を基に、より効果的な手立てを作成し学力の向上を図る。	①国語・算数について端末を利用した学習状況を活用し、個別に声掛けや指導ができたか。また、それによって児童のやる気が高まり、主体的に学習に取り組めたか。 ②学習状況調査の結果を分析し、手立てを講じた取組をおこない、国語・算数において2 p t 向上できたか。				
		学ぶ楽しさを実感できる「日進北小版 STEAMS TIME の実践と日々の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善	①日進北小版 STEAMS TIME を策定、実施し、探求的学びを実践する。 ②教員と児童と共に学び、試行錯誤しながら、現代的な課題の解決を図る。 ③児童主体の「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を行う。	①STEAMS TIME 実施後の児童アンケートにおいて「理科や算数に対する関心が高まった。」と回答する児童の割合が80%となったか。 ②③学校自己評価に係る教員のアンケートにおいて、「STEAMS TIME では児童と共に探求的な学びを実践することができた」「主体的・対話的で深い学びの授業ができた」の割合がそれぞれ80%になったか。				
2	【現状】 ○全国学力学習状況調査の質問紙調査では「自尊心」「学校にいくのが楽しい」の肯定的回答が市・全国を上回っている。 ○コロナによるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きく、不登校、登校渋りの児童が増加している。 ○施設設備の老朽化が各所に見られる。 【課題】 ○不登校、登校渋りの児童を減らしていくのが課題である。 ○安全点検等で上げられる危険箇所については緊急度合を鑑みて、優先順位をつけることが課題である。また、校庭の排水など大規模修繕に係るものについての実施が課題である。	「不登校・登校渋り」傾向の児童の為の居場所づくり	①学習室を整備し、教職員等をできるだけ配置し、学校での居場所をつくる。 ②SC、SSWを有効に活用し、本人や保護者の心のケアを図っていく。 ③教育相談主任を中心に一人ひとりの心に寄り添う相談体制を構築するとともにケース会議を頻繁に開き、担任が抱え込むことの無いようにする。	①学習室を整備し、常時人がいる空間とすることができたか。 ②学校自己評価アンケートの心のケアに関係する項目で職員の肯定的評価が80%となったか。 ③ケース会議の開催について職員の肯定的評価が80%を越えたか。				
		安全な校内環境づくりと児童が主体となった安全に対する取組	①緊急度をしっかりと把握して優先順位をつけ修繕を行う。 ②大規模修繕の必要な箇所について継続的に委員会に要望していく。 ③本年度発足した児童の「安全委員会」の活動を通じて安全に生活することに対して児童が、主体的に決めていく学校づくりを推進する。	①正しい優先順位の下に修繕を進められたか。 ②大規模修繕について委員会に依頼することができたか。 ③安全委員会を活用して学校安全に対する取組を実施できたか。				
3	【現状】 ○本年度より学校運営協議会を立ち上げ、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていく事を確認し、目指す児童像に近づくための方策を考えている。 【課題】 ○地域・家庭・学校が一体となって目指す児童像を実現するための組織作りを行う。 学校運営協議会・SSNの企画作りを如何に実施していくかが課題である。 ○コミュニティスクールについて地域に発信し、地域の担い手となる子どもの育成に自分事として関わってもらうことが課題である。	地域とともにある学校として連携・協働する事業の策定と行動	①学校内に地域の人が集まれる場を作り気軽に来てもらえるようにする。 ②不登校児童のための学習室に地域の人にボランティアとして参加してもらう。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現する。	①地域の人があつまる場を校内に整備できたか。 ②不登校児童等のための学習室運営に関わってもらうことができたか。 ③学校運営協議会、SSNが企画運営する取組を1つ以上実現することができたか。				
		コミュニティスクールについて地域に発信し、周知と理解を高める。	①本校HP内に、新たに学校運営協議会及びSSNの情報を発信するページを作成し、目指す児童像、コミュニティスクール等について地域に知ってもらう。	①HP内にページを設置し、コミュニティスクールについて発信できたか。 ②学校評価においてコミュニティスクールの認知している割合が80%になったか。				
4	【現状】 ○情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 ○高学年での教科担任制実施により、担当する教科について、より深い教材研究を行うことができてきた。 【課題】 ○「主体的・対話的で深い学び」の授業実践を全ての教員が行うことが課題である。	「主体的・対話的で深い学び」への授業改善を通して学ぶ意欲を育む。	①研修組織を改編し、全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」を実践した授業を行う。 ②授業を見合うことによって新しい授業に挑戦し、授業について語り合う意識の醸成を図る。 ③HPに授業内容を掲載し、保護者・地域にも「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深めてもらう。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」を実現するための研究授業を年間1回以上おこなうことができたか。 ②学校自己評価アンケートで授業について語り合う風土ができていると肯定的な評価をする教員が90%であったか。 ③HPで授業について発信し、学校評価アンケートで保護者の「授業改善をしている」とする肯定的評価が80%になったか。				